

# 水ナスのハウス栽培における夏季の細霧冷房効果

～細霧冷房効果で秀品率アップ～

## 1. はじめに

水ナスは夏季の漬物商材として需要が増加している。そのため、需要期に先駆けて出荷できるハウス栽培は有利で、那賀地方を中心に組み込まれている。しかし、ハウス栽培では、特に梅雨明け以降の高温乾燥や樹勢低下による‘つや無し果’の多発が問題となっており、対策技術の開発が望まれている。

ここでは、夏季の細霧冷房稼働がハウス水ナスの収量や品質に及ぼす影響について検討した。

## 2. 試験方法

試験場内鉄骨ハウス（天窓あり、0.4mm防虫ネット被覆）二棟を用い、排出型換気扇だけの慣行ハウス（対照区）と、排出型換気扇＋外気導入型ファンと細霧冷房を稼働させたハウス（細霧区）を設置した。細霧冷房は、4月10日～8月15日に、8:00～16:00の間稼働させた。なお、ハウスサイドは開放とした。ハウス内では半促成作型で水ナスを栽培し、水ナスの収量と果実品質を調査した。収穫期間は5月10日～8月15日とした。

## 3. 試験結果

‘つや無し果’の発生は5、6月に少ないが、梅雨明け（7月中旬）以降に急増した（図1）。また、この発生傾向は、細霧区、対照区ともに同様の傾向であった（データ省略）。時期別収量は、6月までは細霧冷房の有無に関わらずほぼ同じであったが、7月以降は細霧区が対照区より多く、8月15日までの総収量は細霧区が対照区より約15%多くなった（図2）。収穫果実の品質別構成割合では、上物は細霧区(61%)が対照区(44%)の約1.4倍、‘つや無し果’は対照区(33%)が細霧区(16%)の約2倍、‘ぶく果’は両区で同程度の割合であった（図3）。

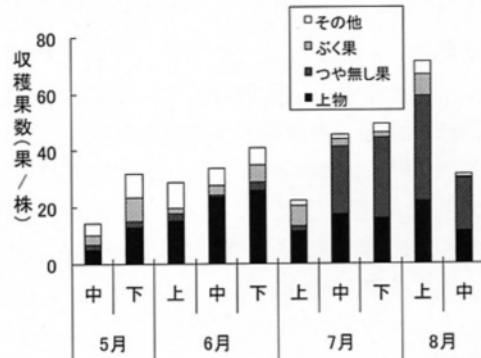


図1 ハウス水ナス不良果の時期別発生数の推移 (対照区)

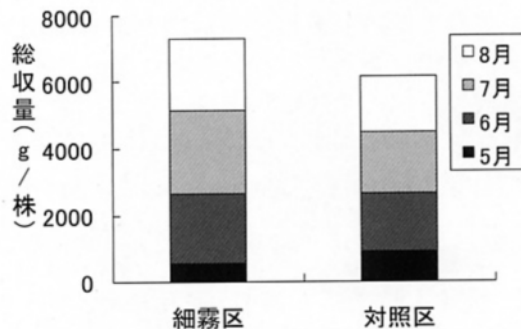


図2 水ナスの時期別収量における細霧冷房の影響

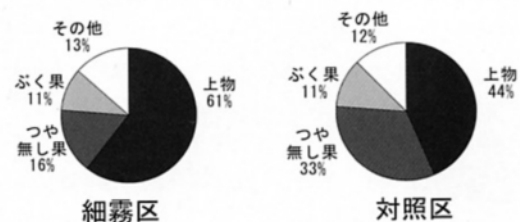


図3 水ナスの果実品質に及ぼす細霧冷房の影響

## 4. おわりに

これらの結果から、水ナスのハウス栽培では、細霧冷房の稼働により、夏季の大きな減収要因である‘つや無し果’の発生が抑制でき、上物果の増収が可能なが認められた。今後、細霧冷房が水ナスの生育や病害の発生に及ぼす影響についても明らかにしていきたい。  
(栽培部 東卓弥)